

第6章

目標達成に向けた方針・施策

1 施策体系

第4章で掲げた3つの目標を達成するため、98つの方針と1918の施策を定めています。

3つの目標		98つの方針		1918の施策		関連目標		
						目標1	目標2	目標3
目標1	スポーツを通じて市民が生き生きとくらすまち	1	誰もがスポーツに参加できる機会の創出	1	子ども、ビジネスパーソン、子育て世代、高齢者のスポーツ参加を促進します	●	●	
				2	スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります	●	●	
				3	地域主体のスポーツ活動を支援・促進します	●	●	
		2	多様なニーズに合わせてスポーツに取り組める場の確保と充実	4	身近にスポーツに親しめる場所や機会を充実させます	●	●	
				5	市民ニーズに応じたスポーツ施設等を充実させます	●	●	
		3	世界で活躍するトップアスリートの輩出	6	アスリートの発掘や育成を支援し、競技力の向上に取り組みます	●	●	●
				7	アスリートと連携したスポーツ機会の提供を充実します	●	●	●
目標2	ひととひとがスポーツでつながる共生のまち	4	障がい者スポーツの推進	8	障がいの有無を問わずスポーツに親しめる機会を創出します	●	●	
				9	障がい者スポーツの実施環境を整備します	●	●	
		5	スポーツを通じた交流機会の創出	10	スポーツを通じた国際交流や異文化理解を推進します		●	●
				11	スポーツを支える人材を育成し、活躍の場を拡大します		●	●
		6	スポーツをみる機会の充実	12	トップスポーツチームと連携し、トップレベルのスポーツ観戦機会を創出します			●
				13	国際大会やスポーツイベントの開催・誘致を促進します			●
目標3	スポーツによりにぎわいがあふれているまち	7	スポーツツーリズムの推進	14	札幌の特色をいかし、道内市町村とも連携したスポーツ・観光コンテンツを造成します			●
				15	札幌のスポーツ資源を活用し、スポーツによるにぎわいづくりを推進します			●
		8	誰もが気軽にウィンタースポーツを楽しむことができる環境の充実	16	ウィンタースポーツを体験できる機会を充実します	●	●	●
				17	ウィンタースポーツ実施に向けた支援を充実します	●	●	●
				18	ウィンタースポーツ拠点を構築します	●	●	●
		9	冬季オリンピック・パラリンピックの招致・開催を通じたまちづくりの推進	19	オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します	●	●	●
				49	オリンピック・パラリンピック冬季競技大会を契機としたウィンタースポーツ拠点を構築します	●	●	●

方針1 誰もがスポーツに参加できる機会の創出

生涯にわたってスポーツに親しむための身体的能力や運動能力を構築するためには、幼少期に望ましい運動習慣を身につけることが重要です。しかしながら、子どもの体力・運動能力などについての全国調査では、札幌の子どもの体力は全国平均よりも低くなっており、子どものスポーツ機会を充実することが不可欠です。

大人になってからも、ライフイベントや体力の低下など、個々人が置かれている状況によって、スポーツに取り組めない人や離れてしまう人もいます。特に20代から50代のビジネスパーソンや子育て世代などのスポーツ実施率は全体と比べると低い状況となっています。

また、市民のスポーツ実施の目的も健康や体力増進、競技力の向上、地域交流への参加、仲間づくりなど様々です。

このような状況を踏まえ、子どもやビジネスパーソン、子育て世代、高齢者など、様々な主体が、それぞれの目的・状況に応じてスポーツに取り組める機会を創出します。

施策①子ども、ビジネスパーソン、子育て世代、高齢者のスポーツ参加を促進します**(1)子どもがスポーツに参加する機会の提供**

子ども時代の健康や生活習慣、身体活動習慣は成人以降にも引き継がれると言われていいます。将来を担う子どもがスポーツを経験することは、子ども自身の健康な身体と豊かな心を育むとともに、生涯にわたって運動やスポーツを継続し、心身ともに健康で幸福な生活を営むことができる資質や能力の育成につながります。

学校や地域等の身近な場所で、子どもが様々なスポーツを楽しめる事業を実施したり、地域に潜在しているスポーツ指導者を掘り起こし、中学校のウィンタースポーツの授業へ派遣したりするなど、学校と地域が一体となって、子どもの頃からスポーツを体験できる機会を増やします。

<具体的な取組>**・子どものスポーツ参加のきっかけづくり【レベルアップ】**

ウィンタースポーツ塾の開催など、子どもを対象とした事業を展開し、子どもの頃から様々な運動に取り組むことができるきっかけをつくります。

・冬季における子どもの運動機会の増進【新規】

冬季における運動機会の確保及び増進のため、子どもたちに対してスポーツや身体を動かすことの楽しさを体感できる機会を提供します。

- ・子どもの体力向上推進事業【継続】

児童や生徒の体力・運動能力調査の実施等により、札幌の子どもたちの体力について分析をする
とともに、子どもの体力、運動能力を向上させるために、主に運動が苦手（嫌い）な子どもや運動
機会が少ない子どもを対象とした取組の一層の充実を図ります。

- ・地域スポーツ指導者の中学校への派遣【レベルアップ】

中学校におけるスキー学習などの体育授業に地域のスポーツ指導者を派遣し、スポーツを
体験する機会を維持するとともに、学校や競技団体等と連携して、地域のスポーツ指導者と
しての人材を掘り起こし、地域と学校が力を合わせて子どものスポーツ活動の機会を充実さ
せます。

- ・児童会館 中学生・高校生夜間利用「ふりーたいむ」の実施【継続】

市内の児童会館の開設時間を延長することにより、中学生・高校生の放課後の活動場所を確保し
スポーツ等を通じた健全育成と、異年齢、異世代の交流の場を作ります。

(2)ビジネスパーソンや子育て世代に対するスポーツ機運の醸成

スポーツ実施率を向上させるためには、就職や結婚、出産・子育てを機会にスポーツ
をしなくなってしまう人やスポーツへの興味・関心が薄い人が、自身の状況に応じて、
継続的にスポーツを楽しめる事が重要です。

ビジネスパーソンや子育て世代などを対象としたスポーツ活動を促進する取組を展開
し、スポーツ参画人口の拡大を図ります。

＜具体的な取組＞

- ・スポーツに対する意識の改善【継続】

日常生活において気軽に取り組めることもスポーツであるという認識の普及や市民のスポ
ーツ意識の啓発を図るため、地下鉄駅の地下コンコース内に歩行による消費カロリー、スポ
ーツ標語などのサインを掲示します。

- ・子育て世代のスポーツ参加に向けた取組【継続】

スポーツ施設において、女性や子育て世代などのニーズや意欲にあったスポーツ機会（親
子向け教室、託児付き教室等）を提供します。

- ・ウォーキングの推進【レベルアップ】

仕事や家事、育児などで時間がとれない方や運動が苦手な方にとっても、気軽に取り組め
るウォーキングをきっかけとした運動習慣づくりのため、アプリを活用したウォーキングイ
ベントなどを開催します。

(3)高齢者がスポーツを楽しむ機会の提供

少子高齢化が進む中で、高齢者が社会の中で生涯にわたって活躍し、生きがいを得て
生活していくためには、達成感や充実感といった精神的な充足をもたらす、心身の健康
の維持・増進にもつながるスポーツは非常に有効なものです。

高齢者を対象とした大会への選手派遣や老人福祉センターにおける健康増進の場の提

供などを通じて、気軽にスポーツに親しむことができる機会を充実させます。

＜具体的な取組＞

- ・全国健康福祉祭「ねんりんピック」への選手派遣【継続】

スポーツや文化等の交流大会、健康・福祉に関する各種イベントなどが開催される高齢者の総合的な祭典である「ねんりんピック」に選手を派遣し、高齢者の健康の保持・増進、社会参加の促進、生きがいの高揚を図ります。

- ・老人福祉センターにおける健康増進の場の提供【継続】

地域の高齢者の健康増進を図るため、老人福祉センターにおいて運動や介護予防の機会を提供します。

- ・老人クラブへの活動支援【継続】

健康づくり活動などの生活を豊かにする活動等を行っている単位老人クラブや、その活動の育成指導や連絡調整を行う札幌市老人クラブ連合会の活動を支援します。

(4)様々な市民ニーズに応じたスポーツ参加機会の提供

少子高齢化の進行やライフスタイルの多様化、人生 100 年時代の到来など、社会情勢が変化している中、様々な世代が、健康づくりや競技力の向上など自身の目的やニーズに応じて、スポーツに持続的に参加できる機会が必要です。

札幌市や競技団体、少年団など、多様な主体が連携・協働し、それぞれが持つスポーツ資源を集約することで、積極的なスポーツ関連情報の発信や様々なイベントを実施するなど、スポーツ参加の機会創出について検討します。

＜具体的な取組＞

- ・新しいタイプのスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ³⁹）の育成に向けた検討【新規】

健康づくりや競技力の向上など、様々な市民ニーズに応じたスポーツ参加の場として、多様な主体が連携した新しいタイプのスポーツクラブの育成に向けた検討を行います。

- ・さっぽろ市民カレッジの実施【継続】

札幌市生涯学習センターを拠点として「さっぽろ市民カレッジ」を開設し、ダンスやフィットネスなど、老若男女が気軽に楽しくスポーツを体験できる講座を提供します。

- ・様々な世代や目的に応じて市民がスポーツに参加できる機会の提供【レベルアップ】

子どもから高齢者まで、幅広い世代の方々が、健康づくりや交流などを目的としてスポーツに参加できるよう、誰もが気軽に楽しめるニュースポーツの体験会の実施や企業と連携したスポーツ機会の提供などに取り組みます。

³⁹ 総合型地域スポーツクラブ：子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ったスポーツクラブ。

施策②スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります

(1)市民の自主的な健康づくりの推進

習慣的にスポーツを行うことは、生活習慣病の予防や介護予防に効果があることが認められています。このため、市民が自ら健康づくりを行えるように、スポーツで得られた知見を生かし、地域の健康づくり活動を支援することに加え、日常的な運動習慣の定着を目指し、幅広い年齢層が気軽に取り組めるウォーキング等を推進します。

＜具体的な取組＞

・地域における健康づくり活動の支援【継続】

市民が自ら健康づくりを行えるよう、地域へ「健康づくりサポーター」を派遣して、ウォーキング、体操、栄養のことなど健康づくりに関する助言や指導を行います。

・公園などの散策できる場の提供【継続】

公園に対する地域ニーズの変化などにも対応するため、老朽化した身近な公園の再整備を行い、公園や自然歩道、市民の森などを活用して散策できる環境を維持していきます。

・ICTを活用したスポーツで得られた医科学的知見の情報発信【新規】

スポーツで得られた医科学的知見やスポーツ分野におけるICTの活用事例等の調査結果を活用し、関連事業と連携した取組を実施します。

・運動習慣等の獲得の推進【新規】

コロナ禍による運動不足や生活習慣病予防のため、市民が身体活動量や歩行時間を増加させるなど運動習慣が身に着くよう、健康教育事業や健康フェア等の測定会・パネル展、市民健康教育・地域健康教室の実施や、ウォーキング等を中心とした運動機会を提供します。

・ウェルネス推進事業【新規】

健康寿命延伸のため、企業や大学等と一体となって健康行動変容や健康意識の向上を促進します。

(2)健康づくりセンターの活用

市民の自主的な健康づくり活動の場である健康づくりセンターを活用し、健康づくりに関する知識を普及するとともに、個人の健康状態に応じた保健指導、運動の実践、指導を行い、自らの健康状態についての認識を高めることにより、市民の健康づくりを推進します。

また、生活習慣病の重症化予防対象者を始めとした、特に支援が必要な方に対しては、医療機関等と連携し利用促進を図るとともに、長期末利用者に対して勧奨を行っていきます。

【健康づくりセンターについて】

各センターには運動指導室やストレッチルームなどを備えており、市民の健康状態に応じた運動教室も実施しています。

・中央健康づくりセンター ・東健康づくりセンター ・西健康づくりセンター

＜具体的な取組＞

- ・健康度測定の実施【継続】

健康づくりに必要な健康状態を把握するための医学的検査、運動負荷試験、体力測定などの検査を行い、これらに基づく個別の運動プログラムなどを作成します。

- ・有資格者による運動指導の実施【継続】

市民の自主的な健康づくりを促進するため、健康運動指導士や理学療法士などが運動指導を行うほか、各区保健センターなどが主催する健康づくり事業へ有資格者を派遣し、集団的運動の実践指導を行います。

(3)冬の暮らしをいかした健康づくりの推進

冬や雪の価値を再認識し、市民が雪に親しみ、楽しみながら、札幌市らしい健康づくりができるよう支援します。

＜具体的な取組＞

- ・冬季の健康づくりを兼ねた雪遊びを楽しめる機会の提供【継続】

冬季の屋外スポーツ施設やスポーツイベントを活用して、スノーラフティングやチューブすべりなど雪遊びの機会を提供します。

- ・冬季における公園（スキー山）の活用促進【継続】

市民が身近に雪に親しむことができる場として、一定以上の規模を有し、安全確保が可能な公園において、快適な冬の暮らしを実現するために、スキーや雪遊びなど冬季の公園活用を推進します。

- ・雪かきチョボラ・雪遊びチャレンジ【継続】

自宅周辺や公共性の高い場所等を除雪する活動を通して、児童生徒が雪に親しめるようにするとともに、冬季における運動習慣の定着を図ります。

施策③地域主体のスポーツ活動を支援・促進します

(1)地域におけるスポーツ活動の支援

身近な地域にスポーツ活動の場があることは、スポーツ参画人口を拡大するうえで重要な要素です。

このため、市民が、主体的に地域スポーツに親しむことができる機会を確保するとともに、将来にわたって地域住民の多様なニーズに応じ、より効果的な活動が地域で展開できるように、スポーツ関係団体等と連携した地域スポーツ環境の整備や、地域における指導者の確保、地域スポーツクラブ⁴⁰の活動を支援します。

⁴⁰ 地域スポーツクラブ：住民がその興味又は関心に応じて身近にスポーツに親しむことができるよう、住民が主体的に運営するスポーツ団体。

＜具体的な取組＞

- ・運動部活動の地域移行に向けた体制整備【新規】

運動部活動の地域移行に向けて、将来にわたり子どもたちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保できるよう、学校や競技団体等と連携して、地域におけるスポーツ活動の体制を整備します。

- ・体育振興会⁴¹などの地域スポーツクラブの活動支援【継続】

地域スポーツクラブとしての役割を担う体育振興会の活動を支援し、講習会講師の紹介や利用可能な助成制度の情報提供などの協力を行うとともに、体育振興会主催のイベントが活発に行なわれるよう、助言・指導を行うことで、地域のスポーツ活動の活性化を図ります。

- ・地域スポーツ指導者の中学校への派遣（再掲）【レベルアップ】

中学校におけるスキー学習などの体育授業に地域のスポーツ指導者を派遣し、スポーツを体験する機会を維持するとともに、学校や競技団体等と連携して、地域のスポーツ指導者としての人材を掘り起こし、地域と学校が力を合わせて子どものスポーツ活動の機会を充実させます。

- ・地域住民が主体となるスポーツ振興事業への支援【継続】

地域住民が主体となり実施するスポーツ振興事業に対して共催や後援、助成を行うことで、スポーツ参加機会を創出し、スポーツを通じた地域の絆づくりを支援します。

(2)区の特色やスポーツ施設を活用したスポーツの普及促進

札幌市ではこれまでも区の特色をいかした様々な取組を行ってきており、スポーツイベントもその一つです。

人と人がつながるきっかけとして、各区において、地域住民が気軽に参加できるスポーツイベントを実施または支援し、地域コミュニティの形成を促進します。

＜具体的な取組＞

- ・区の特色をいかしたスポーツ振興事業の実施【継続】

各区それぞれの特色やスポーツ施設を活用して様々な取組を実施します。

各区における取組の例

中央区：藻岩山を活用した登山イベントの開催など
北 区：麻生球場を活用した雪合戦大会の開催など
東 区：スポーツ交流施設（つどーむ）を活用した「ひがしく健康・スポーツまつり」の開催など
白石区：サイクリングロード（白石こころーど）を活用したマラソン大会の開催など
厚別区：厚別区体育館を活用した「厚別区スポーツチャレンジ」の開催など
豊平区：札幌ドームを始めとする、区内の多数のスポーツ施設を活用し、各施設を拠点に活動するスポーツチームと連携した体験型イベントの開催など。
清田区：白旗山の自然をいかしたスポーツイベントの開催など
南 区：南区の豊かな自然をいかしたウォーキング大会の開催など
西 区：農試公園を活用したマラソン大会の開催など
手稲区：手稲区体育館を活用した「手稲区スポーツ・レクリエーション祭」の開催など

⁴¹ 体育振興会：地域のスポーツ振興を図ることを目的として、学校を拠点として自主管理運営する、地域住民による組織。

方針2 多様なニーズに合わせてスポーツに取り組める場の確保と充実

身近にスポーツができる環境があることは、スポーツに取り組むうえで重要な要素です。市民アンケートにおいても、仕事や家事が忙しいことや育児などを理由にスポーツに取り組むことができないという回答が多く、隙間時間などに気軽にスポーツに取り組める場が必要です。

また、東京 2020 大会を契機として注目されたアクションスポーツやパラスポーツなど、市民が取り組むスポーツ種目も多様になってきています。

さらに、スポーツの範囲も健康づくりのための散歩やジョギングなどの軽い運動をはじめ、気晴らしや楽しみのための身体を動かすレクリエーション活動、競技スポーツなど多岐にわたります。

このため、スポーツ施設をはじめ、学校体育施設やオープンスペース等を有効活用し、市民誰もが目的・競技レベル・生活習慣などに合わせてスポーツに取り組めるよう、多様なニーズに対応したスポーツ実施場所の確保・充実を図ります。

施策④ 身近にスポーツに親しめる場所や機会を充実させます

(1) 安心・安全なスポーツ施設の提供

札幌市のスポーツ施設には老朽化が進んでいるものが多く、今後、更新時期が一斉に到来します。また、人口減少や超高齢社会の進展にも対応していくためには、限られた財源の中で、ますます安心・安全で持続可能な施設環境が求められます。

スポーツ施設の保全や再配置、再整備に際しては、将来にわたり、市民の誰もが継続してスポーツに参画することができるよう、多様性のあるスポーツ環境の提供や、時代の変化に伴う新たな競技ニーズへの対応についても検討していきます。

＜具体的な取組＞

・スポーツ施設の計画的な保全、改修【継続】

市民が安全、安心にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な修繕や、陸上トラックやテニスコート、野球場の改修、大型備品の更新を進めます。

・将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備【継続】

札幌市スポーツ施設配置活用実施方針に基づき、今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応したスポーツ施設の再配置・再整備を行うため、美香保体育館の更新や大倉山ジャンプ競技場の改修等を実施します。

(2)スポーツを実施する場や機会の提供・情報発信

継続的なスポーツ習慣のない人がスポーツに取り組むためには、身近な場所で気軽にスポーツに親しめる環境がとても重要です。

そのため、市民がスポーツを始めるためのきっかけづくりや、気軽にスポーツに参加できる場や機会の提供とともに、スポーツへの関心を高めるための情報発信を図ります。

<具体的な取組>

- ・ **学校施設開放の実施【継続】**

身近で手軽に利用できるスポーツ活動の場として、小学校や中学校、特別支援学校の体育施設(体育館、グラウンド、格技室)を市民へ開放します。

- ・ **北海道日本ハムファイターズ屋内練習場の市民開放【継続】**

ファイターズが屋内練習場を利用しない日時を活用した、市内小中学生チームへの開放を促進します。

- ・ **札幌ドームの活用促進【レベルアップ】**

全市又は全道規模のアマチュアスポーツ大会を開催する際に利用料金を低廉な金額とすることにより、市民が札幌ドームを直接利用できる機会を創出します。

- ・ **スポーツ関連情報の効果的な提供【継続】**

市民のスポーツへの関心を高めるため、公式ホームページや広報紙など、様々な広報媒体を有効に活用しながら、スポーツやイベントに関する情報を効果的に提供します。

- ・ **情報提供の一元化【継続】**

市有スポーツ施設や類似施設の利用案内、予約等に係る情報提供の一元化について検討を行います。

施策⑤市民ニーズに応じたスポーツ施設等を充実させます

(1)スポーツ施設サービスの充実

ライフスタイルが多様化している中、多様な主体がスポーツを楽しむためには、市民一人一人の生活や目的等に合わせてスポーツに取り組むことができる環境が必要です。

市民のライフスタイルや競技レベルなどに応じた施設サービスの向上や環境整備に取り組めます。

<具体的な取組>

- ・ **スポーツ施設供用時間の延長の検討【レベルアップ】**

市民やスポーツ団体のニーズを踏まえ、必要に応じてスポーツ施設の供用時間の延長の検討を行います。

- ・スポーツ施設におけるアスリート枠・障がい者スポーツ枠新設の検討【新規】
競技力に応じた利用枠の新設や競技設備・備品の導入、障がい者スポーツの裾野拡大に向けた利用枠の新設などの検討を行います。

(2)民間事業者による施設整備への補助

今後、人口減少社会や超高齢社会の到来による社会保障費の増大が見込まれ、限られた経営資源の分配がますます重要となっており、行政と民間の役割分担や連携を考慮しながら、効果的なまちづくりを進めていく必要があります。

そこで、スポーツ施設に対する市民ニーズの多様化に対応するため、民間活力をいかしたスポーツ環境の整備を促進します。

＜具体的な取組＞

- ・アクションスポーツなどの練習施設整備補助【レベルアップ】

若い世代を中心に人気が高い、アクションスポーツなどの施設を民間企業等が整備する際に、整備費の一部を補助することで、市民がスポーツに親しめる環境を整えるとともに、スポーツ活動の場を市民へ提供します。

(3)スポーツを通じた集客交流拠点づくり

すべての人がスポーツを身近に感じられるよう、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」ことができる様々な機能と、それらと相乗的に集客交流効果を高める機能を集積した拠点づくりについて、高次機能交流拠点への集約可能性も含めて検討します。

＜具体的な取組＞

- ・札幌ドーム周辺活用の推進【レベルアップ】

高次機能交流拠点である「札幌ドーム周辺」において、スポーツや集客交流産業の振興などに関わる拠点性および札幌の魅力と活力の向上を先導することを目指した「スポーツ交流拠点」を整備します。

- ・将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備（再掲）【継続】

札幌市スポーツ施設配置活用実施方針に基づき、今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応したスポーツ施設の再配置・再整備を行うため、美香保体育館の更新や大倉山ジャンプ競技場の改修等を実施します。

方針3 世界で活躍するトップアスリートの輩出

札幌にゆかりのあるアスリートが努力を重ね、全国大会や国際大会などで活躍する姿は、市民に夢や希望、感動を与え、スポーツへの興味関心を高めることに加え、スポーツ都市・札幌を国内外へPRするきっかけにもなります。また、札幌市民としてのシビックプライドの醸成にもつながり、まちに活力をもたらすものです。

このため、札幌から世界レベルのトップアスリートの輩出に向けた発掘・育成の取組を推進するとともに、アスリートの活躍を支援し、市民のスポーツ機運向上を図ります。

施策⑥アスリートの発掘や育成を支援し、競技力の向上に取り組みます

(1)アスリートの発掘・育成支援

地元出身のアスリートを輩出することは、地元の誇りや地域の活性化にもつながり、市民がスポーツに参加しようとする動機にもつながります。

次世代のトップアスリートを発掘・育成するため、潜在能力のあるジュニアアスリートの発掘や競技力の向上、大会・強化合宿等の参加経費の個人負担分の補助などを行うことで、札幌から世界に羽ばたく選手の発掘・育成を支援します。

また、次世代のトップアスリートの発掘・育成に向けては、一線を退いた札幌市出身のトップアスリートの経験をいかすことで、アスリートの発掘からセカンドキャリアの活用までの好循環を生み出します。

<具体的な取組>

・スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘・育成【レベルアップ】

体力測定会等により優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、競技へとつなげていくとともに、各施設の特性を活かし、日常的なアスリートからの指導や海外合宿、合同トレーニング等を実施することで、世界で活躍する次世代のトップアスリートを育成します。

・さっぽろアスリートサポート事業【継続】

札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図るため、大会や強化合宿等の参加費用等の負担を軽減し、競技力向上に専念するための土台をつくります。

・ICTを活用した競技普及・強化の検討【新規】

スポーツ分野におけるICTを活用した競技普及や強化の取組事例等を調査し、ICT技術の利活用について検討します。

スポーツ施設の戦略的活用

現在のスポーツ施設の主な利用者は、スポーツへの一定の関心がある方や、競技力を有する方が多くなっており、より幅広い層に対するスポーツ参加機会の提供や競技レベルの向上につながる取組が必要です。また、指定管理者が実施している自主事業や委託事業等の中には、単発的な実施にとどまっている事業もあります。

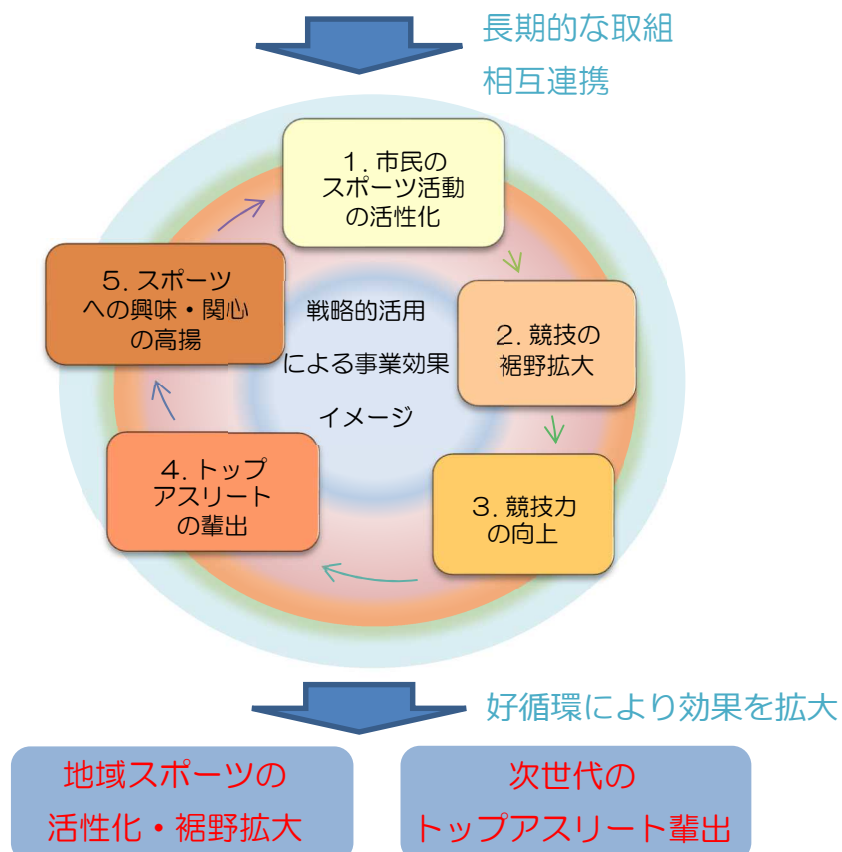
こうした課題を解決するため、施設管理者、競技団体、施設を活用した事業の実施主体が、一体となって事業に取り組める体制を構築していきます。

また、施設を活用した各種事業を、長期的かつ相互に連携した取組として構築し、課題解決につながる好循環を目指します。

さらに、個々の事業目的の達成だけでなく、複数の事業の組み合わせによる相乗効果を意識して企画立案することで、事業効果を拡大し、地域スポーツの活性化や裾野拡大、次世代のトップアスリートの輩出を実現します。

【施設を活用した事業の例】

- ◆ 多様な種目・競技レベルに応じたスポーツ教室
- ◆ 共生社会の実現に向けた障がい者スポーツ推進
- ◆ スポーツを体験する機会を提供する多種目体験教室
- ◆ 運動能力が高い子どもを対象にしたジュニアアスリート発掘
- ◆ 競技力の高い選手を育成するためのジュニアアスリート育成



(2)総合型ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）の誘致に向けた取組

ウインタースポーツの更なる振興や競技力向上を図るとともに、スポーツによる知見の市民還元などを行うことを目的として、冬季競技を中心とした~~に限らず~~
~~夏季競技を含めた~~練習環境の充実や、ジュニア世代から継続的に育成・強化を図る環境整備などを目的として、総合型ハイパフォーマンススポーツセンター（以下「HPSC」という。）の札幌への将来的な誘致~~建設~~を目指した~~誘致に向けた~~取組を進めます。

スポーツ医・科学や情報を取り入れたトレーニングや、長期合宿等を集中的・継続的に行える拠点を整備することで、競技レベルの向上、ウインタースポーツ人口の拡大が期待でき、オリンピック・パラリンピックなど、世界の舞台で活躍できる人材の輩出を目指します。

＜具体的な取組＞

- ・HPSCや大学、アスリート、~~や大学・~~競技団体等との連携強化【継続】

東京にあるHPSCや大学との連携強化の取組やアスリートへのサポート体制の構築、サポートに~~や大学の有識者、競技団体等と連携しながら、総合型ハイパフォーマンススポーツセンター運営体制や~~必要な機能などについて検討を進めます。

施策⑦アスリートと連携したスポーツ機会の提供を充実します

(1)アスリート等の派遣によるスポーツ機会の提供

身近な地域で、特に若い世代がスポーツにふれるきっかけを作るため、運動部活動や少年団、地域イベントにオリンピック経験者等のアスリート派遣を行うほか、大学と連携した体験会や講習会を実施するなど、スポーツ機会の提供と充実を図ります。

＜具体的な取組＞

- ・アスリート・オリンピックの活用【レベルアップ】

アスリートの人材バンクなどと連携をとりながら、中学校の運動部活動や少年団、地域イベントへのアスリートやオリンピックを派遣することでスポーツに対する意欲・関心の向上を図ります。

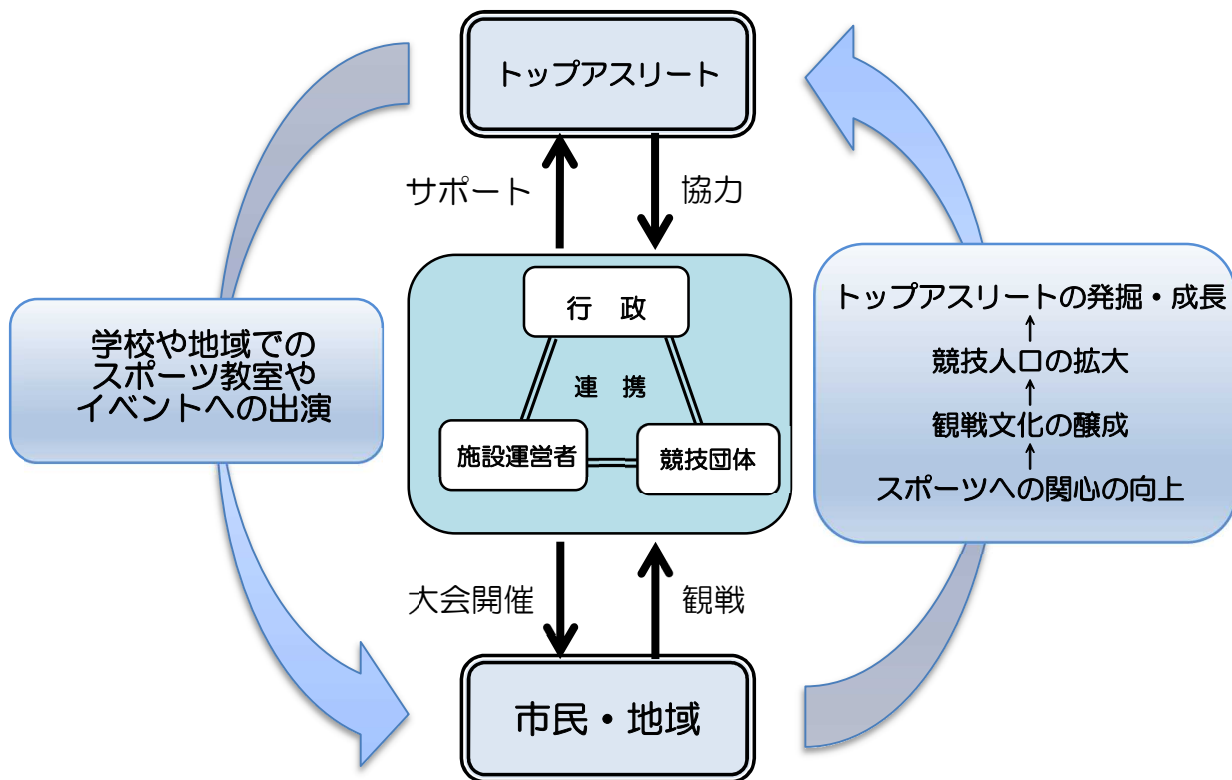
- ・ウインタースポーツインストラクターの派遣【レベルアップ】

市立中学校・中等教育学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校のスキー学習を支援するため、インストラクターを派遣します。また、市立小学校の歩くスキー体験学習に対してインストラクターを派遣します。

- 大学のスポーツ資源をいかした連携【継続】

札幌圏の大学と連携して大学が持つスポーツ資源（学生、研究者など）を活用することで、地域のスポーツ活動の活性化や、子どものスポーツ体験機会の創出、障がい者スポーツの指導者やボランティアの育成を図ります。

図表 33 トップアスリートと地域におけるスポーツ活動の好循環（概念図）



方針4 障がい者スポーツの推進

スポーツは誰もが参加できるものであり、スポーツを軸とした心のバリアフリーの浸透や共生社会の実現に向けては、障がいの有無に関わらず、全ての人々が分け隔てなくスポーツに親しめることが重要です。

障がいのある方が、自身の興味や関心、適性に応じて障がい者スポーツに参加することは、心身の健康づくりや余暇の充実、自己肯定感の向上、社会参加の促進につながります。

また、障がいのない方も含め、全ての人が障がい者スポーツとともに参加することで、障がいのある方同士及び障がいのある方とない方との交流機会が生まれ、障がいへの理解を促進することが期待されます。

障がい者スポーツをより一層推進していくため、障がい者スポーツができる場の充実や、障がいの有無を問わず、障がい者スポーツに関わる機会の創出により、障がい者スポーツへの参画を促進します。

施策⑧障がいの有無を問わずスポーツに親しめる機会を創出します

(1)障がい者スポーツの普及振興の促進

障がいのある方の生活の充実感や運動機能の維持・向上、社会参加・交流の促進において、スポーツは有効な手段であり、障がいのある方の自立に役立つとともに、他の方との相互理解を生み出します。

このため、障がい者スポーツの体験機会の拡充や体験用競技用具の配置、指導者の育成などを通じて、障がいのある方がスポーツを楽しむことができる環境やきっかけづくりを進めます。

<具体的な取組>

- ・障がい者スポーツ体験会の実施【レベルアップ】

様々な競技の体験会を実施し、障がい者スポーツの裾野拡大や市民理解の促進を図ります。

- ・障がい者スポーツ指導者養成講習会の開催【レベルアップ】

障がいのある方を対象としたウインタースポーツの裾野拡大を目的として、バيسキー・シットスキー・チェアスキーなどの指導者養成講習会及び体験会を開催

- ・障がい者スポーツ普及促進協議会の運営【継続】

学識経験者をはじめ、障がい者団体や競技団体、スポーツ施設運営者など多様な関係者からなる協議会において障がい者スポーツの普及促進を図ります。

- ・障がい者スポーツに関する情報提供の充実【継続】

公式ホームページや広報紙、SNS など、様々な広報媒体を有効に活用しながら、障がい者スポーツのイベントや活動団体に関する情報を効果的に提供します。

(2)障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣への支援

障がい者スポーツのアスリートが成果を発揮する機会を提供するため、札幌市障がい者スポーツ大会（すすらんピック）等のスポーツ大会の開催費用や、市外で開催される大会への選手の派遣費用等の一部助成を行うとともに、大会の周知や広報を行うことで障がいのある方のスポーツ大会への積極的な参加を促進します。

また、札幌で開催実績の少ない障がい者スポーツ大会を誘致することで、市民の障がい者スポーツや障がいに対する理解を促進します。

＜具体的な取組＞

- ・札幌市障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣支援【継続】
- ・障がい者スポーツ大会の誘致及び開催支援【レベルアップ】

施策⑨障がい者スポーツの実施環境を整備します

(1)障がい者スポーツの拠点づくり

障がい者スポーツの普及振興のためには、障がい者スポーツの場を創出することが重要です。

そのため、障がい者スポーツの活動場所を拡充することにくわえ、誰もが気軽に様々な障がい者スポーツに取り組める環境を備え、障がい者スポーツに関する情報が集積されているような、障がい者スポーツ推進に向けた中核的な機能を持つ拠点の整備について検討します。

＜具体的な取組＞

- ・障がい者スポーツセンターの設置検討【新規】

障がい者スポーツの普及振興や競技力向上を図るための活動拠点として、障がい者スポーツセンターの設置について検討します。

- ・学校開放における障がい者スポーツ優先枠の設定【レベルアップ】

障がい者スポーツの活動の場の拡充を目的として、学校開放における障がい者スポーツ優先枠を設定します。

- ・スポーツ施設におけるアスリート枠・障がい者スポーツ枠新設の検討（再掲）【新規】

競技力に応じた利用枠の新設や競技設備・備品の導入、障がい者スポーツの裾野拡大に向けた利用枠の新設などの検討を行います。

障がい者スポーツセンター（イメージ）

●施設機能

①アリーナ

- ・多くのスポーツ種目に対応可能であり、凡庸性がある体育室。

②プール

- ・水による浮力があるため、障がいのある方にも取り組みやすい水泳や水中歩行などのスポーツ種目が実施可能。

③トレーニング室

- ・ストレッチ、筋力トレーニング、有酸素運動など様々な目的に応じて利用可能。

④プレイルーム

- ・軽スポーツや子どものレクリエーションなどに利用可能。

⑤屋外施設

- ・冬季スポーツ体験・練習施設など。

●実施事業

①スポーツ・レクリエーション

活動の機会提供

- ・スポーツ・運動場所の提供。
- ・スポーツ機器・用具の貸出、保管。

②各種講習会・教室の開催

- ・初心者対象のスポーツ体験・導入教室。
- ・重度障がい者対象教室。

③指導・助言・相談

- ・中・上級・アスリートのサポート。
- ・出前講座。

④人材の育成

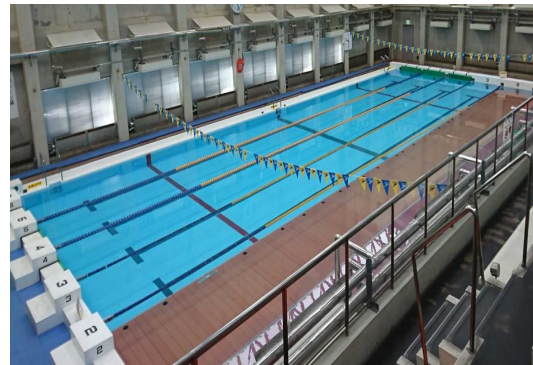
- ・障がい者スポーツ指導員の育成。
- ・医療機関・教育機関との連携。

⑤普及・啓発

- ・障がい者スポーツに関する情報集積・発信



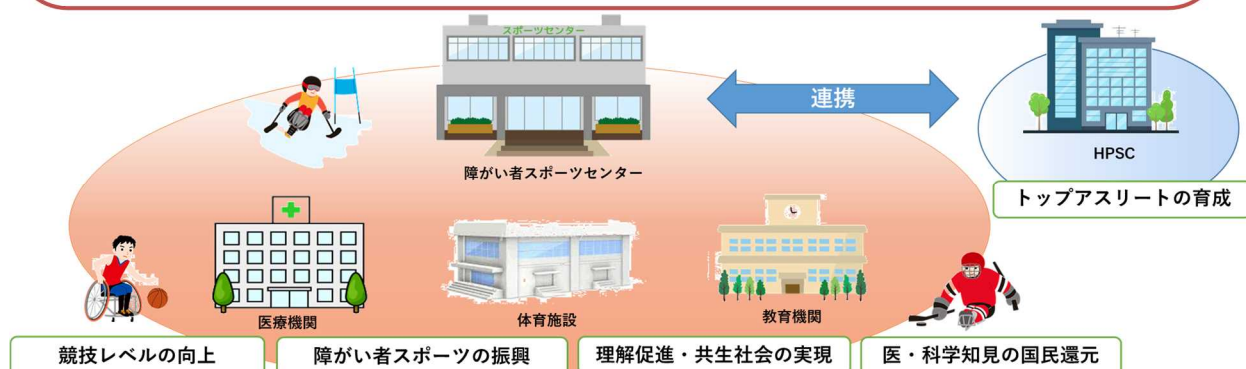
長居障がい者スポーツセンター



長居障がい者スポーツセンター

<障がい者スポーツセンターに期待される姿>

- (1) 誰でもスポーツを楽しむことができる環境
- (2) 裾野拡大から競技力向上まで一貫したサポート
- (3) 医療・福祉・教育機関と連携した情報拠点
- (4) 雪のまち札幌市の特性を活かした冬季障がい者スポーツの充実
- (5) 障がいに対する理解促進・共生社会の実現
- (6) ハイパフォーマンススポーツセンターで得られる医・科学知見の活用



(2)スポーツ施設のアクセシビリティ向上

施設の改修に併せて、スロープや手すり、オストメイト対応トイレの設置等、ハード面のバリアフリー対策を行うとともに、点字やサイン等の情報のバリアフリー対策を実施し、障がいのある方や高齢者においても施設を利用しやすくします。

＜具体的な取組＞

- **スポーツ施設の計画的な保全、改修（再掲）【継続】**

市民が安全、安心にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な修繕や、陸上トラックやテニスコート、野球場の改修、大型備品の更新を進めます。

- **障がいの種別や特性を考慮した誰もが利用しやすいスポーツ施設の運営【継続】**

障がいのある方は、その種別によって求められる対応が全く異なる場合があることから、例えば、コミュニケーションボードの活用や、わかりやすい案内表示を使用するなど、障がいの特性を理解し、それぞれに適した対応に努めます。

- **スポーツ施設におけるバリアフリーマップ導入の検討【継続】**

障がいのある方がスポーツ施設を利用するときに有効となるバリアフリーマップの導入にむけて検討を進めます。

- **スポーツ施設ホームページのアクセシビリティ向上【継続】**

年齢や障がいの有無を問わず、誰にとっても分かりやすく利用しやすいホームページとなるよう、アクセシビリティの向上に努めます。

方針5 スポーツを通じた交流機会の創出

スポーツには人を惹きつける力があり、多くの出会いを生み出し、喜びや感動とともに分かち合うことで人と人とのつながりが生まれます。こうしたつながりによって、スポーツを「する」参加者のみならず、スポーツを「ささえる」指導者やボランティアスタッフ、スポーツを「みる」観客などによる交流が促進されます。

スポーツによる交流は、地域内の交流をはじめ、異なる地域や国、文化の人々との交流も生み出すため、地域コミュニティの醸成や国際親善、異文化理解の促進などにもつながります。

スポーツを通じて多様性の理解、尊重を深めていくため、大規模な国際大会をはじめ、様々なスポーツ大会やイベントなどにおける、国際交流・ボランティア活動・地域交流等を促進し、人々の交流機会を創出します。

施策⑩スポーツを通じた国際交流や異文化理解を推進します

(1)スポーツを通じた国際交流の推進

スポーツは言葉や文化を超えて人々の交流を生み出すことができるため、国際交流の推進において非常に有効な手段です。

札幌市の国際交流の拠点施設である札幌国際交流館の活用や、スポーツの国際大会の開催をきっかけとして、市民と外国人のスポーツを通じた交流を促し、相互理解と親善を深めます。

<具体的な取組>

- ・国際交流館におけるスポーツや健康づくりをきっかけとした異文化理解の促進【継続】
札幌国際交流館において、市民と外国籍市民等とがスポーツを通じて相互理解及び親善を深められる事業を実施します。
- ・国際交流を目的とした国際スポーツ大会への参加支援【継続】
スポーツを通じた国際交流を目的として、国外で開催される国際スポーツ大会へ参加する団体及び個人に対して助成金を交付します。
- ・国際大会の開催を契機とした国際交流の実施【継続】
国際大会の開催に併せて、市民の国際交流を促進するため、国内選手と海外選手との選手交歓会や市民と海外選手による交流会などを開催します。

施策⑪スポーツを支える人材を育成し、活躍の場を拡大します

(1)スポーツボランティアの育成と推進

スポーツ活動を「ささえる」人材として最も代表的なものはボランティアです。ラグビーワールドカップ2019™や東京2020大会などにおいても、ボランティアの活躍はめざましく、今やスポーツ活動に必要不可欠な存在となっています。

このため、札幌のスポーツボランティア「スマイル・サポーターズ」の活動機会を拡充するとともに持続可能な運営体制を確保し、市民の多様なスポーツ参加機会の創出とスポーツを通じたおもてなし体制の更なる充実を図ります。

＜具体的な取組＞

- ・スポーツボランティアの活動及び研修機会の充実【レベルアップ】

競技団体や教育現場等と協働でボランティアの実践の場や研修機会を創出します。

- ・スポーツボランティアに関する情報提供の充実【継続】

ホームページや SNS、会報誌など、様々な広報媒体を活用し、スポーツボランティアの活動内容や募集情報について幅広く周知を図ります。

(2)スポーツ推進委員の活動促進

スポーツ推進委員は、地域のスポーツ活動の企画や運営を行うなど、スポーツを「ささえる」重要な役割を担っています。研修や研究協議会への参加により、スポーツ推進委員のスキルアップを図るとともに、スポーツ大会やイベントにも積極的に参加することで活動の促進を図ります。

＜具体的な取組＞

- ・研修会の開催及び派遣【継続】
- ・スポーツ大会等における活動促進【継続】

(3)クリーンでフェアなスポーツの推進

スポーツ分野においては、依然として暴力行為やハラスメント、選手のドーピングなどが問題となっています。

このような事態を防止するため、札幌市スポーツ協会や競技団体等と連携しながら、スポーツ関係者の暴力・不適切指導等の根絶、ガバナンス強化、コンプライアンスの徹底に取り組み、「スポーツ・インテグリティ」を確保していきます。

＜具体的な取組＞

- ・指導者講習会の開催【継続】

競技団体やスポーツ少年団を対象とした指導者講習会を開催します。

方針6 スポーツをみる機会の充実

スポーツを「みる」ことは、スポーツの楽しさや喜びを感じられることに加え、選手が試合や競技に挑戦する姿は感動を与えてくれます。また、選手と観戦者が一つとなる一体感を味わえるなど、多くの魅力があります。さらに、スポーツを「みる」ことでスポーツへの興味や関心が高まり、スポーツを「する」「ささえる」人を増やすことにもつながります。

一方で、~~札幌においては、コロナウイルスの影響もあり、近年の直接スポーツ観戦率は低迷しており、また、~~市民が観戦しているスポーツ種目は野球やサッカー、マラソンなどに偏っている傾向があります（P39 参照）。

そのため、札幌市が蓄積してきた多くの国際大会の開催経験やトップスポーツチームとの連携体制を活かし、市民が多種多様なスポーツを観戦する機会の充実を図ります。

施策⑫トップスポーツチームと連携し、トップレベルのスポーツ観戦機会を創出します

(1)トップスポーツチームとの連携によるスポーツ観戦機会の創出

スポーツへの興味・関心の向上やスポーツの裾野拡大、競技人口の拡大、観戦文化の定着を図るために、市民がトップレベルのスポーツを「みる」ことを積極的に推進するとともに、市民とトップスポーツチームやトップアスリートとの交流を促進し、スポーツの魅力をもっと深く感じられる機会を創出します。

<具体的な取組>

・プロスポネット SAPPORO による取組【レベルアップ】

「プロスポネット SAPPORO」と連携・協力した観戦機会の充実により、「みる」文化の醸成を図るとともに、観戦のきっかけとなるスポーツイベントなどを開催します。

・札幌ドーム周辺活用の推進【レベルアップ】（再掲）

高次機能交流拠点である「札幌ドーム周辺」において、スポーツや集客交流産業の振興などに関わる拠点性および札幌の魅力と活力の向上を先導することを目指した「スポーツ交流拠点」を整備します。

プロスポネット SAPPORO

「スポーツの力でまちを元気に！プロスポーツのあるまち」

札幌市は3つのプロスポーツチーム（北海道日本ハムファイターズ・北海道コンサドーレ札幌・レバンガ北海道）と連携・協力して、共通目標である「スポーツを通じたまちづくり」を進めていくため、平成25年（2013年）3月に「プロスポネットSAPPORO」を設立しました。

平成30年度よりエスポラーダ北海道が加わり、4つのプロスポーツチームと札幌市が持つ力を結集し、より高いレベルで目標の実現を目指します。



©HOKKAIDO NIPPON-HAM FIGHTERS



©CONSADOLE



©LEVANGA HOKKAIDO



©ESPOLADA

協力内容

- ・スポーツの裾野の拡大、「みる」文化の醸成
- ・スポーツ振興、アマチュアスポーツの支援
- ・シティプロモートやスポーツツーリズムの推進

(2) トップスポーツなどの試合開催支援【レベルアップ】

より多くの市民に「みる」スポーツに参加してもらうためには、トップスポーツなどの試合の関連情報の提供や観戦意欲を向上させる取組も必要です。

そのため、トップスポーツなどの試合開催に合わせて、広報やシティドレッシングなどを実施することで、スポーツ観戦機運の醸成を図ります。

＜具体的な取組＞

- ・トップレベルの試合や国際試合を開催する際の広報・シティドレッシングの実施【レベルアップ】

札幌で開催されるトップレベルの試合に併せて、札幌駅前通地下歩行空間の壁面や柱に広告を掲示するほか、親子の無料招待を実施します。また、国際大会の開催時には市内でパブリックビューイングを実施するなど、「みる」スポーツを推進します。

施策⑬ 国際大会やスポーツイベントの誘致・開催を促進します

(1) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組

札幌市では今までに数々の国際大会が開催されてきました。スポーツ参画人口の拡大やスポーツ都市としてのブランドを高めるため、大会開催により蓄積された経験やノウハウをいかし、国際大会の継続開催や、市民のニーズに応じたスポーツイベントの誘致などに取り組みます。

＜具体的な取組＞

- ・国際大会などの誘致・開催【レベルアップ】

ウィンタースポーツ競技を中心に魅力的な国際大会を誘致・開催することで、市民のスポーツへの興味・関心を高めるとともに、大会運営の経験を蓄積します。

- ・海外代表合宿の誘致【継続】

国内外の競技団体とのネットワークを構築し、国際大会の事前合宿などの受入支援を行い、スポーツ都市としての札幌の知名度向上を図ります。

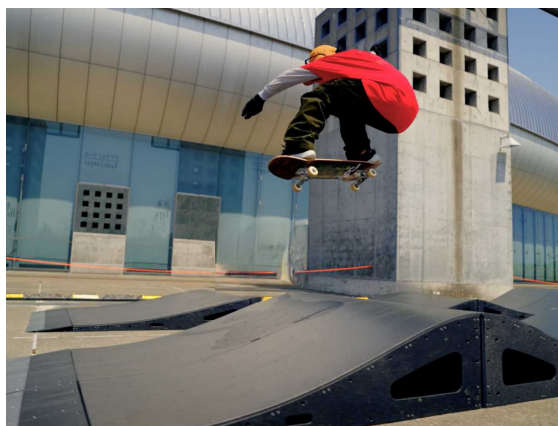
- ・アクションスポーツなどの新たなスポーツ分野の大会・イベントの誘致・開催【レベルアップ】

若年層に人気のある、アクションスポーツなどの新たなスポーツ分野の大会やイベントを誘致・開催することで、様々なスポーツの観戦機会を創出します。

アクションスポーツの推進

エクストリームスポーツの中で、都市での開催が可能な種目がアクションスポーツです。

「エクストリーム」という言葉が極度・先端・過激を表わすとおり、速さや高さを極限まで追求し、過激で華麗な離れ技を競い合うスポーツです。代表的な競技としてBMX、スケートボード、パルクール、インラインスケート、ブレイクダンスなどがあります。



東京 2020 大会における日本人選手の活躍もあり、近年若い世代を中心に人気が高まっています。

札幌市においては、このような新しいスポーツへのニーズに応えるため、大会の誘致・開催や、施設整備の支援などに取り組み、幅広い世代のスポーツ参画人口の拡大に取り組んでいきます。

(2)市街地におけるクロスカントリースキー大会の開催

市街地でクロスカントリースキー競技大会を開催し、多くの市民が間近で観戦する機会を創出することにより、クロスカントリースキーを身近なスポーツとして浸透させるとともに、ウィンタースポーツの興味・関心の向上と観戦文化の醸成を図ります。

＜具体的な取組＞

- ・アスリートを対象としたクロスカントリースキー大会の開催支援【継続】

札幌ならではの冬のにぎわいを新たに創出するため、市街地におけるクロスカントリースキー競技の国際大会開催を目指します。

方針7 スポーツツーリズムの推進

スポーツツーリズムは地域外からの誘客促進や、交流人口の拡大、地域内消費の増加など、地域・経済の活性化に貢献するものです。

札幌は、市内に多数のスポーツ施設が整備されているほか、大規模な国際大会の開催実績、札幌マラソンをはじめとするスポーツイベントといった豊富なスポーツ資源を有しており、魅力的なスポーツ・観光コンテンツを造成できる環境が整っています。

スポーツツーリズムの更なる推進に向けて、これらの国際大会のレガシーや札幌のスポーツ環境などを活かし、国内外から札幌でスポーツを楽しむ観光客を増やすための取組を行います。

施策⑭ 札幌の特色をいかし、道内市町村とも連携したスポーツ・観光コンテンツを造成します

(1) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組（再掲）

札幌には昭和 47 年（1972 年）のオリンピック冬季競技大会のレガシー施設をはじめ、札幌ドームなどの多目的スポーツ施設や様々なスポーツに対応可能な屋内・屋外スポーツ施設が整備されています。また、多数の大型スポーツイベントを開催してきた経験と実績もあります。

国内外に向けて、こうした北海道・札幌の豊富なスポーツ資源と恵まれた環境、特に北海道の特徴であるウィンタースポーツ環境をPRし、スポーツを目的とした観光客の誘客を図ります。

<具体的な取組>

・国際大会などの誘致・開催（再掲）【レベルアップ】

ウィンタースポーツ競技を中心に魅力的な国際大会を誘致・開催することで、国内外からスポーツ観戦を目的とした観光客を誘客します。

・マラソンツーリズムの推進【継続】

東京 2020 大会のマラソン競技開催のレガシーを活用した、モデルコースの設定やランニングイベントなどを実施します。

・ナイトクロカン事業【継続】

札幌ならではの冬の観光コンテンツとして、市内の歩くスキーコースを活用し、「クロスカントリースキー体験の夜間営業」と「イルミネーション演出」を一体的に体験できるエリアを設置します。

・スキープロモーションの実施【継続】

スキーツーリズムを推進するため、国内外の博覧会等におけるスキープロモーションを実施します。

(2)市民スポーツ大会の開催支援

スポーツ都市としての知名度のさらなる向上を図るとともに、スポーツを「する」目的で、札幌を訪れる人々を増やすため、札幌市スポーツ協会等の関係団体との連携により、多くの市民が参加する市民スポーツ大会や札幌マラソンなどの大型スポーツイベントを開催し、交流人口の拡大やにぎわいの創出を図ります。

＜具体的な取組＞

- ・市民スポーツ大会や大型市民スポーツイベントの開催【継続】

【主なスポーツ大会】

・市民スポーツ大会	参加者数	15,476 人（令和4年度実績）
・札幌マラソン	参加者数	8,178 人（令和4年度実績）
・北海道マラソン	参加者数	18,290 人（令和4年度実績）
・札幌国際スキーマラソン大会	参加者数	709 人（令和4年度実績）
・北海道を歩こう	参加者数	452 人（令和4年度実績）

施策⑮札幌のスポーツ資源を活用し、スポーツによるにぎわいづくりを推進します

(1)札幌の魅力をいかした観光資源の活性化検討

札幌は年間を通じて多彩なイベントが開催され、食やショッピングなどの都市観光に強みを持ち、例年多くの観光客が訪れています。観光地としての満足度も、国内客・海外客共に高い数値となっており、魅力的な都市として評価されています。

札幌が将来にわたって魅力的な観光地であるために、大倉山ジャンプ競技場や札幌ドームといったスポーツ施設や、スキー場などの郊外型観光資源を活用し、付加価値の高い観光コンテンツを造成することで、年間を通じた誘客の拡大を図ります。

＜具体的な取組＞

- ・札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ【新規】

札幌オリンピックミュージアムの魅力の向上や集客力強化のため、体験装置や展示物の更新を検討します。

- ・大倉山ジャンプ競技場の機能向上【新規】

大倉山ジャンプ競技場で引き続き国際大会を誘致するため、国際競技規則に適合するための改修を実施します。

- ・札幌ドームの活用促進（再掲）【レベルアップ】

全天候型多目的施設としての機能を生かし、新たなスポーツイベントやトップレベルの試合の誘致や、多彩なイベントに対応するための機能の拡充等について検討します。

- ・ スキーを始めとしたウィンタースポーツ体験の機会創出【レベルアップ】

国内外の観光客が、都心部のオープンスペースやスキー場などの郊外型観光資源において、気軽にウィンタースポーツやスノーアクティビティなどに親しむことができるよう、雪のまち札幌ならではの観光コンテンツを造成します。

(2)プロスポーツチームとの連携によるシティプロモート

札幌市に本拠地を置くプロスポーツチームとスポーツを通じたまちづくりを推進するために設立した「プロスポネットSAPPORO」などを活用し、プロスポーツチームの発信力をいかして札幌の魅力を PR することにより、プロスポーツチームの試合観戦を絡めた観光客の誘客を図ります。

【プロスポネット SAPPORO 構成団体】 北海道日本ハムファイターズ、北海道コンサドーレ札幌、 レバンガ北海道、エスポラーダ北海道

＜具体的な取組＞

- ・ プロスポネット SAPPORO による取組（再掲）【レベルアップ】

「プロスポネット SAPPORO」と連携・協力して、観戦機会の充実による「みる」文化の醸成を図るとともに、観戦のきっかけとなるスポーツイベントなどを開催します。

方針8 誰もが気軽にウィンタースポーツを楽しむことができる環境の充実

札幌市では、冬季の豊富な積雪や自然環境を活かしたウィンタースポーツを、札幌特有のスポーツ文化として普及振興に取り組んできました。市内には多くのウィンタースポーツ施設が設置され、また、ウィンタースポーツの大会も多く開催されており、市民のみならず地域外からも利用者や観客が訪れています。

しかし一方では、市民のウィンタースポーツ実施率は減少傾向にあります。ウィンタースポーツを文化として根付かせると共に、将来に向けて継承・発展させていくためには、子どもの頃からウィンタースポーツに親しむ機会を増やすことに加え、大人になっても継続して取り組める環境づくりが重要です。

市民アンケートにおいても、ウィンタースポーツ実施の阻害要因として、経済的負担や、施設へのアクセスなどを挙げる回答が多くなっています。

ウィンタースポーツをより一層振興していくため、ウィンタースポーツ実施に係る経費の支援やウィンタースポーツに気軽に取り組める場の創出、世界屈指のウィンタースポーツシティへの発展に向けたシティプロモートと環境整備を推進していきます**などに取り組めます。**

施策⑩ウィンタースポーツを体験できる機会を充実します

(1)ウィンタースポーツの裾野拡大に向けた取組

札幌市は恵まれたウィンタースポーツ環境にあり、様々なウィンタースポーツに年間を通して親しむことができます。このようなウィンタースポーツ環境をいかし、ウィンタースポーツへの参加のきっかけをつくるとともに、市民のウィンタースポーツへの関心を高め、ウィンタースポーツの裾野拡大を図ります。

<具体的な取組>

・ウィンタースポーツ塾の開催【レベルアップ】

小学生を対象として、様々なウィンタースポーツが体験できる機会を創出し、競技人口の裾野拡大を図ります。

・ウィンタースポーツ少年団の活性化【レベルアップ】

冬季競技においてトップアスリートを生み出す土台となるウィンタースポーツ少年団の活性化を図るため、体験会の開催や広報などを支援します。

・カーリング競技の普及【継続】

札幌市カーリング場（どうぎんカーリングスタジアム）で、子ども向け指導プログラムやレベル別講習会などを実施し、競技の裾野拡大や競技力の向上を図ります。

- ・ウインタースポーツインストラクターの派遣（再掲）【レベルアップ】

市立中学校・中等教育学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校のスキー学習を支援するため、インストラクターを派遣します。また、市立小学校の歩くスキー体験学習に対してインストラクターを派遣します。

- ・北海道コンサドーレ札幌との連携によるウインタースポーツの普及振興【継続】

コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかし、ウインタースポーツの普及振興や観戦文化の醸成を目指します。

- ・企業等と連携したウインタースポーツイベントの開催【新規】

アスリートが所属する企業と連携した体験会等の開催や、企業が開催するイベントに対する広報支援などを実施します。

(2)気軽に行うことのできるウインタースポーツの普及

ウインタースポーツを実施するうえで、施設への交通アクセスや時間的余裕がないことなどが妨げとなっていることから、身近な公園などで実施することができる歩くスキーなど、冬季に気軽に行うことのできるスポーツの幅広い年代への普及を目指します。

＜具体的な取組＞

- ・歩くスキーの普及振興【継続】

中島公園に無料で利用できる歩くスキーコースを開設し、用具の無料貸出を実施するとともに、白旗山競技場の歩くスキー常設コースも無料開放を実施します。

- ・カーリング競技の体験機会の提供【継続】

札幌市カーリング場（どうぎんカーリングスタジアム）で、体験教室や団体向けのレクリエーションの開催など、気軽にカーリングを体験できる機会を提供します。

(3)ウインタースポーツ観戦文化の醸成

ウインタースポーツ都市への発展に向け、「する」ウインタースポーツだけではなく、「みる」ウインタースポーツの定着も重要な視点の一つといえます。札幌市では様々なウインタースポーツの大会が開催されていることから、多くの市民にウインタースポーツの大会情報を発信するとともに、観戦環境を充実させることにより、ウインタースポーツの観戦者を増やすことや裾野拡大を目指します。

＜具体的な取組＞

- ・ウインタースポーツシーズンにおける大会情報の発信【継続】

プロスポーツチームと連携し、ホームページやSNSなどにおける大会情報の発信に取り組みます。

- ・ウインタースポーツ競技大会の開催支援【レベルアップ】

スキージャンプワールドカップ大会などの観戦環境の充実に取り組み、ウインタースポーツ観戦者の増加を図ります。

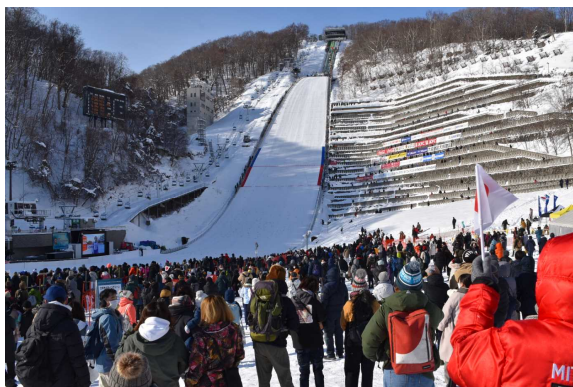
ウィンタースポーツ観戦文化の醸成

札幌の特有の文化であるウィンタースポーツの観戦文化の醸成と裾野拡大を図るため、スキージャンプワールドカップ大会などの観客を増やすことを目的に、平成 30 年度より観戦環境の充実に取り組んでいます。

【観戦環境の充実に向けた取組】

- MC・DJ による会場の盛り上げ
- 大型ビジョンに選手プロフィール等を掲載
- 選手出演の PR 動画の作成
- PR チラシ・ポスターの作成
- 「プロスポネット SAPPORO」との連携企画
- 選手によるトークショーの開催
- スノースケート・キッズスノースライダー体験コーナーの設置
- 飲食ブースの展開

今後もウィンタースポーツの普及振興に向けて、更なる観客増を目指し、これまで来場したことがない方々やウィンタースポーツに関心がない方々にも、スキージャンプなどの魅力を広く知っていただき、実際に会場に来ていただけるよう取り組んでいきます。



施策⑰ウィンタースポーツ実施に向けた支援を充実します

(1)ウィンタースポーツの経済的負担の軽減

市民アンケートにおいて、ウィンタースポーツを実施するうえで大きな課題の一つとして挙げられるのが、ウィンタースポーツ用具の購入費用や施設利用料など、経済的な負担が大きいことです。

市民がウィンタースポーツを実施する際の、用具購入や施設利用料などの経費の負担軽減を図り、誰もがウィンタースポーツに取り組めるよう支援を充実します。

＜具体的な取組＞

- ・ウィンタースポーツ実施時の利用料金等の助成【レベルアップ】

市内の小学生を対象にスキーリフト料金を、市内の小学生及び中学生を対象にスケート場の貸靴料金を助成します。また、市内の未就学児及びその親を対象にスキー用具のレンタル料金を助成します。

- ・児童生徒を対象としたリサイクルスキーの提供【継続】

市民から不要となったスキー用具の提供を受け、これを希望する児童・生徒に提供します。

- ・さっぽろアスリートサポート事業（再掲）【継続】

札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図るため、大会や強化合宿等の参加費用等の負担を軽減し、競技力向上に専念するための土台をつくります。

(2)民間事業者による施設整備への補助（再掲）

今後、人口減少社会や超高齢社会の到来による社会保障費の増大が見込まれ、限られた経営資源の分配がますます重要となっており、行政と民間の役割分担や連携を考慮しながら、効果的なまちづくりを進めていく必要があります。

そこで、民間活力をいかしたスポーツ環境の整備を促進し、スポーツ施設に対する多様な市民ニーズに対応していきます。

＜具体的な取組＞

- ・スポーツ練習施設の整備補助【レベルアップ】

ウィンタースポーツ施設を民間企業等が整備する際に、整備費の一部を補助することで、市民がウィンタースポーツに親しめる環境を整えるとともに、ウィンタースポーツ活動の場を市民へ提供します。

施策⑱ウィンタースポーツ拠点を構築します

(1)スノーリゾートシティとしてのブランド化

札幌は市内に6つのスキー場が存在するなど、ウィンタースポーツが盛んな都市であるとともに、市内各所でスノーアクティビティや雪遊び等の雪体験が楽し

めるなど、スノーリゾートとしてのポテンシャルを有する街です。

世界屈指のウィンタースポーツシティの実現に向けて、ウィンタースポーツやスノーアクティビティのみならず、食やショッピングなどの観光も楽しめる、札幌ならではの「大都市スノーリゾートシティ」としてのブランド化を目指します。

＜具体的な取組＞

・スノーベースタウンSAPPOROの促進【新規】

札幌・定山溪をスキヤーのベースタウンとし、市内及び周辺のスキーリゾートとの周遊を促進するため、インバウンド向けコンテンツの開発やモニターツアーの実施、情報誌や様々なメディアを活用した情報発信を行います。

・スノーリゾート推進事業【新規】

スノーリゾートシティSAPPORO推進戦略に基づき、スノーリゾートとしてのブランド化に向けて、市内スキー場の魅力向上やスキー場と関連事業者の連携事業支援、冬季観光コンテンツの充実等に取り組みます。

(2)オリンピック・パラリンピック教育の推進

オリンピック・パラリンピックをテーマに、スポーツの意義や価値、障がい、国際理解・国際平和、他者との共生などへの理解・関心を深めるとともに、1972年のオリンピック冬季競技大会を開催した札幌の歴史やレガシーを学び、「ふるさと札幌」を愛する心情を育成する、オリンピック・パラリンピック教育を推進します。

また、オリンピック・パラリンピック教育を通して、子どもの頃からウィンタースポーツシティとしてのシビックプライドを醸成します。

＜具体的な取組＞

・オリンピック、パラリンピアンを招へいし、講話や体験活動を行う学校教育【レベルアップ】

・札幌オリンピックミュージアムを活用した学校教育の推進【継続】

札幌オリンピックミュージアムや大倉山ジャンプ競技場を活用し、子どもたちへのオリンピック・パラリンピック教育を実施します。

・札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ（再掲）【新規】

札幌オリンピックミュージアムの魅力向上や集客力強化のため、体験装置や展示物の更新を検討します。

(3)総合型ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）の誘致に向けた取組（再掲）

ウィンタースポーツの更なる振興や競技力向上を図るとともに、スポーツによる知見の市民還元などを行うことを目的として、冬季競技を中心とした練習環境の充実や、ジュニア世代から継続的に育成・強化を図る環境整備などを目的として、HPSCの札幌への将来的な誘致を目指し、取組を進めます。

スポーツ医・科学や情報を取り入れたトレーニングや、長期合宿等を集中的・継続的に行える拠点を整備することで、競技レベルの向上、ウィンタースポーツ人口の拡大が期待でき、オリンピック・パラリンピックなど、世界の舞台で活躍できる人材の輩出を目指します。

<具体的な取組>

- ・HPSCや大学、アスリート、~~や大学~~・競技団体等との連携強化【継続】

東京にあるHPSCや大学との連携強化の取組やアスリートへのサポート体制の構築、サポートに必要な機能などについて検討を進めます。

方針9—オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の招致・開催を通したまちづくりの推進

札幌は昭和 47 年（1972 年）のオリンピック冬季競技大会の開催を契機として、都市基盤の整備が推進され、国際観光都市としての地位を確立するとともに、国内有数の都市にまで成長を遂げました。

一方で、オリンピック冬季競技大会の開催から 50 年が経過し、人口減少・少子高齢化への対応、共生社会の実現、インフラの更新、気候変動対策等の取組といった、様々な問題を抱えています。オリンピック・パラリンピック冬季競技大会を開催することは、こうした諸問題の解決を図るとともに、100 年後の未来を見据えた持続可能なまちづくりの推進に貢献するものです。

オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の招致・開催を契機に、世界屈指のウインタースポーツシティへの発展に向けたシティプロモートと環境整備を推進していきます。

施策⑩ オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します

(1)市民の招致・開催機運やシティプロモートの醸成に向けた取組

オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の招致・開催に向け、国や北海道、関係市町村や札幌招致期成会等の経済団体、そして競技団体などと引き続き連携を図り、全国的な招致・開催機運の醸成を推進します。

招致活動に際しては、透明性、公正性の高いクリーンな大会の計画案を策定するとともに、大会の開催意義やオリンピック・パラリンピックの魅力や価値を伝えていくことで、市民・道民・国民の理解促進に取組み、もう一度オリンピックを、そして初めてのパラリンピックを札幌で見たいという期待感を高めます。

また、オリンピック・パラリンピックを単なる一過性のスポーツイベントとするのではなく、大会の開催を契機として、市民・企業・行政の力を結集し、まちづくりの取組を加速させていきます。

＜具体的な取組＞

・オリンピック・パラリンピック冬季競技大会招致活動【継続】

オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の招致を目指し、次世代に過度な負担を残すことのない、まちづくりと連動した大会の計画案を策定するとともに、市民への理解促進、機運醸成の取組や招致活動に取組みます。

・オリンピック・パラリンピック冬季競技大会招致活動を通じた道内連携の促進【継続】

大会の競技会場やその周辺などの関係自治体とともに、施設整備や大会運営のあり方等について協議していきます。

- ・~~オリンピック・パラリンピック冬季競技大会を契機としたまちづくり推進事業【新規】~~
~~オリンピック・パラリンピックによりもたらされるレガシーを、札幌が直面する社会問題等の解決にいかし、オリンピック・パラリンピックを契機とした持続可能なまちづくりを推進していきます。~~

(2)オリンピック・パラリンピック教育の推進

~~オリンピック・パラリンピックをテーマに、スポーツの意義や価値、障がい、国際理解・国際平和、他者との共生などへの理解・関心を深めるとともに、1972年のオリンピック冬季競技大会を開催した札幌の歴史やレガシーを学び、「ふるさと札幌」を愛する心情を育成する、オリンピック・パラリンピック教育を推進します。~~

＜具体的な取組＞

- ・~~オリンピック、パラリンピアンを招へいし、講話や体験活動を行う学校教育【レベルアップ】~~
- ・~~札幌オリンピックミュージアムを活用した学校教育の推進【継続】~~
~~——札幌オリンピックミュージアムや大倉山ジャンプ競技場を活用し、子どもたちへのオリンピック・パラリンピック教育を実施します。~~
- ・~~札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ（再掲）【新規】~~
~~札幌オリンピックミュージアムの魅力の向上や集客力強化のため、体験装置や展示物の更新を検討します。~~

施策⑭オリンピック・パラリンピック冬季競技大会を契機としたウインタースポーツ拠点を構築します

(1)スノーリゾートシティとしてのブランド化

~~——札幌は市内に6つのスキー場が存在するなど、ウインタースポーツが盛んな都市であるとともに、市内各所でスノーアクティビティや雪遊び等の雪体験が楽しめるなど、スノーリゾートとしてのポテンシャルを有する街です。~~

~~——オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の招致から開催に向けた取組みを通じて、ウインタースポーツやスノーアクティビティのみならず、食やショッピングなどの観光も楽しめる、札幌ならではの「大都市スノーリゾートシティ」としてのブランド化を目指します。~~

＜具体的な取組＞

- ・~~スノーベースタウンSAPPOROの促進【新規】~~
~~——札幌・定山渓をスキーヤーのベースタウンとし、市内及び周辺のスキーリゾートとの周遊を促進するため、インバウンド向けコンテンツの開発やモニターツアーの実施、情報誌や様々なメディアを活用した情報発信を行います。~~

~~・スノーリゾート推進事業【新規】~~

~~スノーリゾートシティSAPPORO推進戦略に基づき、スノーリゾートとしてのブランド化に向けて、市内スキー場の魅力向上やスキー場と関連事業者の連携事業支援、冬季観光コンテンツの充実等に取り組みます。~~

~~(2)総合型ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）の誘致に向けた取組（再掲）~~

~~ウインタースポーツの更なる振興や競技力向上を図るとともに、知見の国民還元などを行うことを目的として、冬季競技に限らず夏季競技を含めた練習環境の充実や、ジュニア世代から継続的に育成・強化を図る環境整備などを目的として、総合型ハイパフォーマンススポーツセンターの札幌市への建設を目指し誘致に向けた取組を進めます。~~

~~スポーツ医・科学や情報を取り入れたトレーニングや、長期合宿等を集中的・継続的に行える拠点を整備することで、競技レベルの向上、ウインタースポーツ人口の拡大が期待でき、オリンピック・パラリンピックなど、世界の舞台で活躍できる人材の輩出を目指します。~~

~~＜具体的な取組＞~~

~~・アスリートや大学・競技連盟等との連携（再掲）【継続】~~

~~アスリートや大学の有識者、競技団体等と連携しながら、総合型ハイパフォーマンススポーツセンター運営体制や必要な機能などについて検討を進めます。~~